

八丈島 水産だより

12月号
2019年



イソヒヨドリ



植樹体験

短かった秋は過ぎ、いよいよ冬へと移り替わりつつあります。11月中旬に、三根小学校4年生に、強風や高潮から島を守る保安林の植樹を体験してもらいました。「森が海を育てる」という言葉があるように、森と海にはとても深いつながりがあります（下の記事で紹介しています。）。今回植えた木が大きく成長して、人々の暮らしを守ることに加えて、八丈島の海をより豊かなものにしてくれることを期待しています。

■ 最近の漁模様 ～ムロアジ漁終盤～

8月から始まったムロアジ漁は、12月末で漁期の終わりを迎えます。10月までは小さいムロアジが主体でしたが、11月に入りようやくサイズが大きくなってきたようです。また、引き続きハチビキ、アオダイ、ハマダイもよく獲れています。これから年末年始に向けて魚がよく売れるようになるため、漁業者がより多く出漁できることを願っています。



↑ 作業中のムロアジ漁船
右手に伸びる棒の水面下に網をたらし、その上に餌で魚をおびき寄せる。

↓ 水揚げ後に選別機にかけられるムロアジ



■ 「森が海を育てる」ということ



↑ 陸と海の栄養分の流れ

森と海には深いつながりがあります。海は食物連鎖を支えるプランクトンは海水中のミネラルや細かい有機物の粒を栄養にします。これらの栄養分は、森の中に落ちている落葉や動物のフンが分解されることで作られ、地下水や河川を通じて海に届きます。こうしてできた栄養の豊富な海には多くのプランクトンが生息し、それらを食物とする魚類や貝類も集まることで、豊かな生態系が形成され、漁業生産も増大すると言われています。